

小学生記者が製鉄所と火力発電所取材！



JFEスチール東日本製鉄所(京浜地区)

かわさきリンカイズ 小学生新聞

2019年(令和元年)
11月1日発行

臨

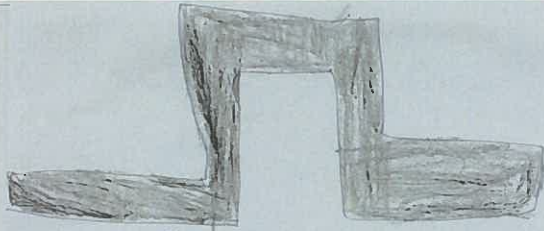
臨
カ
イ
海
部
フ



JERA川崎火力発電所



川崎臨海部ってどんなところ！？



はい、ぶくねくねしているのは
これないためくねくねしているのは
6.5きろ
まよりまく2のほうがおおきい!!
(40m) (42m)

鉄鉱石・石灰石炭はどこから入れるの?

オーストラリア・アメリカから入っている。

のはして付くときに熱くなった。
(4cm)

のはす前は温かかった。
(25cm)



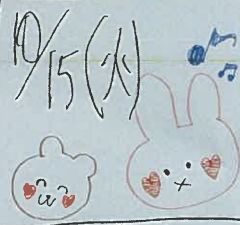
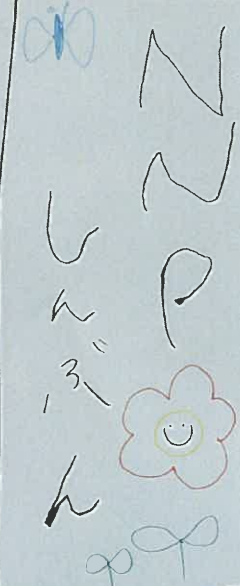
のはす前



のはす後

びっくりしたこと

- 1 なかたがだかた。
- 2 こうじょうのひろさは3000メートル
- 3 てつのばししているところか



はつけんせい

おとせいの

小オオ斗磨

ゲトそう

たのしきよ!

ハホホ

すげえ!!と思った。

奥山

まるごゆめの!
ようごした。はっや

すぐ ぎじゆつ にほん さんぎよう ささ つづ いま さいせんたん けんぎゅうかいはつ おこな あたら かち う だ つづ かわさきりんかいぶ
優れた技術で日本の産業を支え続け、今では最先端の研究開発も行われるなど、新しい価値を生み出し続ける川崎臨海部。
そんな川崎臨海部を代表する2社を小学生記者が取材しました。



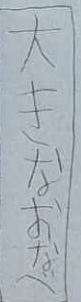
フコ
 年
 た
 におはげんからには、てあ、た
 ま、コ、が、です、あ、ん、ぜ、ん、の、た
 ね、を、ま、つ、つ、か、の、ま、さ、す、
 安、全、コ、に、声、か、け、安、全、が、
 考、え、る、山、安、全、の、つ、れ、は、工、場、
 に、も、は、て、あ、た、ど、う、に、
 も、は、て、あ、た、ど、う、に、



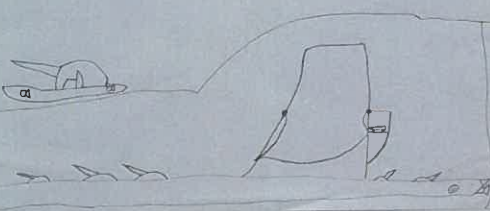
川崎タイムズ
2011

（これはマダクとマダクⅡです。）
 リききかりよくはつでんしよしギ一ちの
 オキととはとうキようどとうむやくら個分
 です。
 かりよくはつでんしでつんつた両里仁気は
 宗家や学校やしことばにとどギます。

まつざわ さおり
 ひらの よしひと
 きうち かずと
 ひかにし こうき
 さわだ うみ



てつをよかした
時にできるふじゅん
ぶつ(スラブ)が
おなべにはいていく
ようすです。



かわさき し
川崎市
KAWASAKI CITY

かわさぎしかわさきくみやもとちょう
川崎市川崎区宮本町 1

TEL: 044-200-2945 FAX: 044-200-3540 <http://www.city.kawasaki.jp>

制衣鉄所はどんなところ？

私たちは、JFEスチール東日本

製鉄所に行きました。

燃延工場です。いしは厚さ250mm長さ

か9mです。つぎの厚さが60mm長さ36mにつぎ

の厚さが40mm長さ

の厚さが40mm長さ

の厚さが40mm長さ

の厚さが40mm長さ

の厚さが40mm長さ

の厚さが40mm長さ

の厚さが40mm長さ

の厚さが40mm長さ

の厚さが40mm長さ

の厚さが40mm長さ

の厚さが40mm長さ

の厚さが40mm長さ

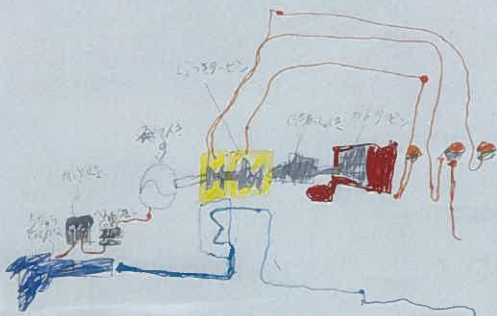
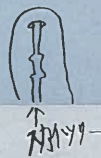
の厚さが40mm長さ

の厚さが40mm長さ



志村素子 小野夏花
橋口怜太 濱澤佳士
梶原吏恩

おんのかみりた
すけしに上にある
スカイリールが見えます



川崎火力発電所は、石炭の燃焼機があり、ま
は、まがスモ、この機械で冷します。
マグが、あてて、進化して、マグIIになりました。
マグIIは、42m(一色、銀色)のマグII(マイン)で、あてて、
溶った音、ゴゴゴ、ゴゴゴ、という音がしました。

すぐ ぎじゅつ にほん さんぎよう ささ つづ いま さいせんたん けんきゅうかい ぶつ あこな かわさきりんかいふ
優れた技術で日本の産業を支え続け、今では最先端の研究開発も行われるなど、新しい価値を生み出し続ける川崎臨海部。
そんな川崎臨海部を代表する2社を小学生記者が取材しました。

どんな所？

意見

JFEや火力発電所みたいな工業が
発展すると、京浜工業が発展して、
産業がますます良くなると思う
そして、輸入や輸出で人工島が増え
今よりも発展して未来がよりよ
くなってほしい。

JERA
JFE

檜村龍太郎
わかおしょうじ
ひめのきよら
梶原のん



JERA
川崎火力発電

行てきた！

「JERA 川崎火力発電所とは？」

一九六一年にできた

工場の中には、水しりしせつがある。

よつねをとりて海にもどしている

いかにしてえんとかからだしている

玉葉(やへ)しい(さく)けんとし(て)いる

一坪の中に入りてみよう！

工場の外へ出てみると安全通路があった

赤のパイプ。よはつかはいかん

はつてんとはとてもあふかた

今は、コンビバイニードサイクル発電をしている

たしなむ

ぼくはJERRA川崎火力発電
 所に見学に行つてすごいと思つたの
 はタービンです。ななすごいと
 思ふ理由は音が大きいから
 です。あともう一つ理由があり
 ます。それはタービンにそ
 わつてみるとけこうあつたこ
 からです。はかに毛上のしん
 のようなけしきみれます。

すぐ　ぎじゆつ　にほん　さんぎょう　ささ　つづ　いま　さいせんたん　けんきゅうかいはつ　おこな　あたら　か　ち　う　だ　つづ　かわさきりんかいふ
優れた技術で日本の産業を支え続け、今では最先端の研究開発も行われるなど、新しい価値を生み出し続ける川崎臨海部。
そんな川崎臨海部を代表する2社を小学生記者が取材しました。

JFEスチール 東日製鉄所 5年生 新聞

この会社は、私たちがつかっている身のまわりの鉄製品をつくっている会社です。
たとえば車のぶいんや、カンジュースのカンなどがつくられています。

鉄がつくられるながれ

1. 原料処理

最上級の焼結鉱とコークスに焼きあける。

2. 製鉄

製鉄所のシンボル*高炉で銑鉄を作ります。

3. 製鋼

固くてもろい銑鉄を強く、しなやかな鋼(はがね)に変身させます。

✓ JERA 川崎火力発電所
このJERA川崎火力発電所は、毎日必ず使っている電気を作っている会社です。昔は、マイク・フラデーという人が電気の力を使って、動くのは初めて開いたのでも、びっくりはいるので、協動してやっていたのがすごいと思いました。電気はじしゃくとコイルを作る電気をつける実験をすることが出来ます。

意見

広田 怜央那

高井 翔二朗

佐々木 航多

JFEスチール東日本製鉄所

ぼくは鉄鉱石や石炭などのほとんどこが外国から来ているというところを初めて知りました。

JERA川崎火力発電所

ぼくは、学校でも電気の授業をしたりするけどコイルの部分を、磁石が通ることによって電気をつくることが出来るというところは知らなかったです。



すぐ ぎじゅつ にほん さんぎよう ささ つづ いま さいせんたん けんきゅうかい ぶん おこな あたら かし う だ つづ かわさきりんかいぶ
優れた技術で日本の産業を支え続け、今では最先端の研究開発も行われるなど、新しい価値を生み出し続ける川崎臨海部。
そんな川崎臨海部を代表する2社を小学生記者が取材しました。

川崎臨海部 記念新聞

保護者版

2019年10月15日(火)、川崎臨海部を1日かけてまわった。参加したのは、1年から6年までの川崎市内の小学生20人、「かわさき家庭と地域の日」を利用した、川崎市主催の特別プレスツアーだ。訪問先は、日本の製鉄業を代表するJFEスチール東日本製鉄所と、首都圏の発電を担うJERA川崎火力発電所。両社からの説明の後の質問コーナーでは、矢継ぎ早の質問が引きも切らず、時間を大きくするオーバーする熱心さ、社員の皆さんをたじたじにした。

川崎臨海部特別プレスツアーに
参加した
保護者のコメント

JFEスチール東日本製鉄所

- 子どもよりも熱心に工場見学していたかも。高炉や熱延工程を見て感激。鉄は人間が長年蓄積した高度な技術の結晶で、橋梁・鉄道・車など、生活基盤を支えるとても重要なものだとも認識した。(男性)
- 赤い鉄の熱気をそばで感じられて迫力あった。溶鉱炉から出てくる鉄が、オレンジ色に輝いていて、ずっと眺めていたいくらい、とてもきれいだった。(40代・女性)
- 製造過程がコンパクトに説明され、見応えがあった。(50代・男性)
- 製造途中で発生した色々なガスを、ミックスガスとして再利用して、環境に配慮しているのを知った。(40代・女性)
- 自分たちが毎日使う電気が、どんな機械で作られているかを見学して、身近に感じることが出来た。
- 電気を作る「発電」という事業のスケールを、子どもが五感で理解してくれていたと思う。音の大きさに圧倒された。
- エコ発電の現状や蒸気の有効活用を知ることが出来て有意義だった。

JERA川崎火力発電所



JFE スチール東日本製鉄所 (京浜地区)

●生活に欠かせない火力発電なので、ますますの発展を期待したい。(40代・女性)

●鉄や電気など、とても身近なのに、目には見えにくいダイナミックなものが、どのように作られているか、私たちの生活を支えているのか、体感出来て良かった。工場ならではの景観は、大人でもテンションが上がって、楽しかった。



JFE スチール東日本製鉄所 (京浜地区)

川崎臨海部について

- どちらの工場も緑化に力を入れていると思った。(30代・女性)
- 京浜工業地区は、普段近寄らない場所なので、地元発見の良い機会となった。川崎市民がもっと知って、身近に感じ、誇りが持てるような集客施設の建設を希望。(40代・男性)

新聞作りについて

- 子どもが今日の取材ツアー開催まで、「まだ？まだ？」と毎日楽しみにしていた。終始興味深く見学していた。(40代・女性)
- 子どもが学校の勉強だけでなく、実社会に関心を持って欲しいので参加した。(50代・男性)
- 見学だけで終わってしまうよりも、目的がはっきりしていて、モチベーションにつながったようだ。「メモもしっかりとっておかなければ」と頑張っていた。(40代・女性)
- 見て、聞いて、吸収するだけではなく、何かを伝える作業は、今後どんな必要になると思うので、良い経験ができた。(40代・女性)
- 普段、新聞を見る機会がなく、良い機会だと思った。伝えたいことを分かりやすく、見やすくする工夫が必要なことを学べたと思う。(30代・女性)



グループにわかれて新聞を作る子どもたち



JERA 川崎火力発電所



川崎臨海部

川崎臨海部は海を臨む工業地帯です。



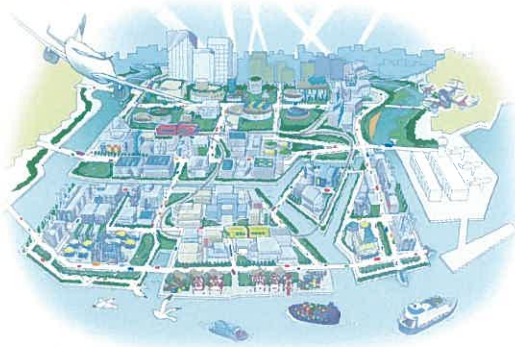
約2,300もの事業所と
約59,000もの従業者を抱える、**川崎市の産業の中でも非常に重要な地域**なんです。



川崎臨海部

川崎市域と臨海部の位置

川崎臨海部は約100年前に起業家の元祖・浅野総一郎が実業家・渋沢栄一らの支援を受け、埋立事業や企業誘致を始めて以来、**我が国を代表する工業地帯**として日本経済を支えてきました。



川崎臨海部がめざす30年後の将来像

川崎臨海部が今後も発展し続け、市民サービスや雇用を支えるだけでなく、産業拠点として世界の模範となるような地域をめざして、平成30(2018)年3月に「**臨海部ビジョン**」を策定しました。

「臨海部ビジョン」に基づき現在、川崎市では臨海部立地企業の優れた製品・技術が市民生活を支えていることをお伝えするため、「**企業活動見える化プロジェクト**」に取り組んでいます。

今回の新聞製作もこの取組の一つです。30年後の目指す将来像の実現に向け、これからも様々な取組を進めていきます。

カッコいい！
ワクワクする！

